

るものであるが、沿岸部でも斜面の向きによってピークの現われ方に差があることを見だし、その差を梅雨末期豪雨と熱帯低気圧といった気象現象の違いで説明を試みたわけである。この研究ではできるだけ長い統計期間を取るようにしたが、それでも豪雨発生の偶発性によって、グループ化が影響を受けている可能性はある。ともあれ、以上のような大雨発生度数の日変化および季節変化の特徴は、大雨予想のためのガイダンスの作成、あるいは注意報・警報の発表作業の手順に取り入れられれば、精度向上が期待できそうである。

本論文では便宜上、行政区分（都府県）ごとに統計した資料で調査した。行政区分はある程度は地形区分も反映しているが、行政区分からの地形的特徴の考察では明確な結論が導きにくい。今後、さらに地形に密着した区分で調査すれば、より明瞭な特徴を掴める可能性がある。一方、台風襲来の経年変化などを考慮すれば、10年間の資料は必ずしも十分な量とは言えない面もあり、別のより長い期間での調査により新たな特徴を見いだせる可能性もある。また類似性の尺度についての調査も進め、多次元クラスター分析の適用など、より客観的な手法の利用も試みたい。

参考文献

- Fujibe, F., 1988 : Diurnal Variations of Precipitation and Thunderstorm Frequency in Japan in the Warm Season, Papers in Meteorology and Geophysics, 39, 79-94.
- Kraus, E. B., 1963 : The diurnal precipitation change over the sea, J. Atmos. Sci., 20, 551-556.
- 二宮洸三, 1977 : 豪雨の時間スケールからみた降水強度極値の地理的分布, 天気, 24, 63-70.
- 奥田穰, 1970 : 日本における大雨の気候学的研究. 気象研究所研究報告, 21, 323-379.
- Ramage, C. S., 1971 : Monsoon Meteorology, Academic Press, 295pp.
- Riehl, H. and A. H. Miller, 1978 : Differences between morning and evening temperatures of cloud tops over tropical continents and oceans. Quart. J. Roy. Met. Soc., 104, 757-764.
- Short, D. A. and J. M. Wallace, 1980 : Satellite-inferred morning-to-evening cloudiness changes, Mon. Wea. Rev., 108, 1160-1169.
- Takeuchi, T and M. Nagatani, 1974 : Oceanic thunderstorms in the tropical and subtropical Pacific, J. Meteor. Soc. Japan. 52, 509-511.
- 安田清美, 1970 : 日本における強雨 (50 mm/hr 以上) の気候学的特性, 天気, 17, 539-548.



湘北短期大学電子情報学科助手公募

1. 公募人員 助手1名
2. 所属部門 電子情報学科
3. 専門分野 電子回路および情報処理に関連した分野に強い関心を持ち、将来本学科の中心となって御活躍いただける方
4. 着任時期 決定後できるだけ早い時期
5. 応募資格 25歳前後、修士課程修了以上（博士課程中退可）でエレクトロニクスおよび情報処理の教育に熱意がある方
6. 提出書類
 - (1) 履歴書（写真貼付）
 - (2) 発表論文リスト
 - (3) 主要論文別刷り
 - (4) 推薦書一通
 - (5) 本人について所見を求め得る方2名以上の氏名・連絡先
7. 公募締切 8月31日（火）必着
8. (1)宛先 〒243 神奈川県厚木市温水428 学校法人ソニー学園湘北短期大学 総務部 総務部長 山本好敬
(2)問い合わせ先 電話 0462(47)3131 (代) 電子情報学科 教授 落合 萌, 教授 金子一彦, 教授 小野博敏
9. その他 「電子情報学科教員公募書類」と朱記し、書留にて郵送のこと